

## 第4学年道徳学習指導案

日時 平成24年9月27日(木) 5校時  
対象 4年生(男13名 女12名 計25名)  
指導者 和賀 みゆき

1 主題名 大切なきまり(公德心, 規則の尊重 4-(1))

2 資料名 道子の赤い自転車(学研 みんなのどうとく 4年)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章道徳の内容の第3学年および第4学年の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)に「約束や社会のきまりを守り, 公德心をもつ」とある。これは, 第1学年及び第2学年の内容項目4-(1)「みんなが使うものを大切にし, 約束やきまりを守る」を受けたものであり, さらに, 第5学年及び6学年の内容項目4-(1)「公德心をもって法やきまりを守り, 自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす」に発展している。

社会のきまりを守り, 人に迷惑をかけないようにすることは, 社会生活を営む上で, 最も基本的な生活態度である。一人一人が社会全体のことを考え, 一つ一つのきまりを守り, よりよく行動していくことで, お互いが気持ちよく暮らすことができるのである。

しかし, 実際の生活の中では, 不特定多数の人のことを考える気持ちよりも, 自分の損得利害を優先させてしまうことが多く, そのことが原因で正常な社会生活が成り立たないでしまうこともしばしばある。そのために, 罰則まで決めざるを得ないのが現実である。

そういう現代社会において, 一つ一つのきまりの本当の意義を理解し, それらを守り, 他の人に迷惑をかけないで生活していこうとする気持ちをもたせ, 徳的なものの見方や考え方を育てていきたいと考える。

この期の児童は, きまりを守らなければならないことは概ね理解している。しかし, やはり自分の欲求や都合を優先させてしまい, 友達や他の人に迷惑をかけてしまうことも多い。そこで, きまりの一つ一つがなんのためにあるのかを考え, 誰にとっても住みよい社会にするために, それらを守っていこうとする心情や態度を育てていきたい。

(2) 児童について

本学級の児童は, 学校の約束や決まりについては, 自分たちなりに守ろうと努力している。また, 約束やきまりが他の人に迷惑をかけないためにあるということも理解している。しかし, 毎日の生活の中では, 自分の都合を優先したり, 「自分一人だけならいいだろう。」という自分本意な行動をとったりすることがしばしばある。きちんときまりとして明文化されているにもかかわらず, そのきまりを意識せず, 他人に不快な思いをさせたり, 迷惑をかけたりすることもある。

このような児童に, きまりの一つ一つにはそれぞれ意義があることに気付かせ, 他の人に迷惑をかけず, お互いが気持ちよく暮らしていくことができるように, 一つ一つのきまりを守ろうとする心情や態度を育てたい。

(3) 資料について

ピアノのレッスンに遅れそうになった道子は, 母親から忠告されたにもかかわらず, 駅前の街路樹の周りに自転車を置いてしまう。しかし, 駅のホームで, 自転車の撤去の話や自転車がたおれて危なかった話を聞き, 自分のしたことが不安になる。道子は, ピアノのレッスン中も自転車のことで頭がいっぱいになり, 急いで電車に乗る。

道子の自分本位な行動に共感させながらも, 救急車が入って来られないという事実や, 自転車の撤去という罰則について考えることによって, なぜきまりがあり, 大切にしなければいけないのか考えさせるのに適した資料である。

(4) 指導の態度

本学級の本年度の「河北輝きステージプラン」のテーマは, 「公德心・規則の尊重」であり, 2学期の目指す子ども像を「社会のきまりや約束を守り, 公德を大切にしようとする子ども」と設定した。1学期には, さんさ踊りの取り組みの約束やきまりを考え, それらを守って練習させたり, 公共施設の使い方に気を付け, マナーを守って鑑賞することの大切さを考えさせたりした。また, 道徳では, 「目に見えないきまり」という内容で授業を行い, 社会のきまりについての意識をもたせるようにした。しかし, 子どもの実態を踏まえ, 再度ルールを守ることの大切さを押さえ, 自分本意の判断で行動することが人に迷惑をかけることを実感させていきたい。

本時では, 「深める」段階で, 主人公の状況を把握し, その様子や言葉から主人公の気持ちを語らせていきたい。また, 「つかむ」段階では, きまりがなぜあるのか, なぜ守らなくてはならないのかということを考えさせ, 命にかかわることもあるきまりの大切さについて, 友達の考えとかかわらせながら話し合わせていきたい。ねむの木ノートには, 社会の中にある様々なきまりについて, これまでの自分の行動や気持ちを振り返らせるとともに, 今後のあり方を記述させたい。ねらいとする価値とこれまでの自分を見つめさせることにより, 社会の中でお互いに迷惑をかけないように, また, 気持ちよく暮らすことができるように, 改めてきまりについて考え, それらを守ろうとする意欲をもつことができるようにしたいと考える。

4 本時の展開

(1) ねらい

公共の場のきまりの大切さについて考え、守ろうとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	指導上の留意点 (◆は見つめる, ◇はかかわり合いの手立て)
気づく 3	1 写真を見て, 社会のきまりについて話し合う。 ○これらの写真を見て, どんなことを感じますか。	・きまりを守らないで, だめだと思った。	・写真を提示し, 感想を言わせることで, 価値への方向付けを図る。
深める 16	2 資料を読み, 感想を发表し合いながら, 話し合いの方向性を確認する。 ○この資料を読んで心に残ったことを発表しましょう。	・道子が, 駐輪場じゃないところに自転車をおいてしまい, だめだと思った。 ・電車に乗ってからも, 自転車のことが気になった道子の気持ちを考えたい。	・児童の感想をもとに, 不安になっている道子の気持ちを考えていくことを確かめるようにする。
電車の中でも, 自転車のことで頭がいっぱいになった道子の気持ちについて考えよう。			
つかむ 10	3 主人公の行動や気持ちについて話し合う。 ①道子が, 自転車を駐輪場に預けずに, 駅前においてしまったのは, どんな気持ちからでしょう。  ②二人連れの女の人の話を聞いて, 道子はどんなことを思ったでしょう。  ③電車の中でも, 自転車のことで頭がいっぱいになった道子はどんな気持ちだったのでしょうか。	・レッスンに間に合わない。 ・めんどくさい。 ・他の人も置いている。 ・2時間くらいだから, 迷惑にはならない。 ・鍵をかけるから, 大丈夫。  ・救急車が入ってこられなかったら, どうしよう。 ・自転車がたおれて, 迷惑をかけていなきやいいな。 ・私の自転車も撤去されたらどうしよう。 ・失敗, 駅前に自転車を置いてくるんじゃないか。	・母親から言われたにもかかわらず, 自分勝手な気持ちで行動した道子の気持ちに共感させたい。  ・他の人に迷惑がかかるという考えと自分本位な考えから, 不安になり始めた道子の気持ちに共感させる。  ◇自分本位の考え方が出されることが考えられる。そこで, 迷惑がかかるという立場と自分本位の立場の子どもたちの意見交流によって, きまりを守らなかった自分の行為を反省している道子の心情を捉えさせたい。
広げる 10	4 自分の生活を振り返る。 ○きまりを守ることについて分かったことを書き, これまでの自分を振り返ってみましょう。	・みんなの迷惑にならないようにきまりを守ることの大切さが分かった。みんなのことをあまり考えないことがあったので, 迷惑をかけないようにきまりを守っていくようにしたい。	◆自分の今までの行動やそのときの気持ちを思い出して, ねむの木ノートに記述させるとともに, 今後の自分のあり方について見つめさせたい。
まとめる 6	5 公共の場で働いている人の話を聞く。		・公共の場で働いている人の話を聞き, きまりを守ろうとする気持ちを持たせたい。